

令和4年度 学校自己評価システムシート 日高市立武蔵台小学校

目指す学校像	生き生きと学び高め合う美しい学校 ～夢いっぱい・笑顔いっぱい・花いっぱい～
重点目標	義務教育学校開校へ向けての準備

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年度評価 (2月15日現在)				
評価項目	具体的方策	評価指標	A+Bの割合		達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
			職員	保護者			
組織運営の充実 (小中一貫の視点)	学校教育目標と目指す15歳像の具現化	1 学校は、目指す15歳像「たくましく未来を切り拓き、一歩上を目指す台っ子」の育成に努め、学校教育目標「なかよくする子・かんがえる子・じょうぶな子・かんとする子」の育成に努めている。	93.3%	91.9%	○校長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となり、連携・協力しながら、学校教育目標と目指す15歳像の実現に向けた取組ができた。 ○いじめアンケート(年3回)を実施し、実態を把握し、早期発見・早期対応にあたることでできた。児童や保護者の声に耳を傾け、一人一人の不安に対して各学級で丁寧に対応した。(いじめ認定1件、0件解決、1件経過観察) ○児童理解を深めるため、毎週「情報交換会」を実施し、年回「生徒指導委員会」を開催した。また、校務支援システムの日々の記録を活用し、全教職員で児童の様子や家庭状況を共有し、その児童に適した指導を協議し対応した。校外の教育相談機関とも密に連携した。	A	○学校教育目標と目指す15歳像の具現化に向けて、児童生徒、教職員、保護者、地域が一体となり、組織的・継続的に対応していくことが重要となる。そのために、共通理解を図り、共通行動がられるように連携していく。 ○いじめアンケートを通して、児童や保護者との対応をいっしょに行っていく。また、校内における情報交換の場においては、情報共有の場とし、全教職員で対応していく。
	積極的な生徒指導の推進	2 学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる。	100.0%	89.9%	○全学年の発達段階や児童の実態に合わせ、学習意欲を喚起している。特に、タブレットを使用した自主学習等も増えてきている。	B	○全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の結果を校内研修で細かく分析し、学校・学年としての対応策を明確にする必要がある。また、タブレット活用においても教職員で研修を行い、幅広い学習を展開し、個に応じた指導を充実させていく。 ○家庭学習を習慣化させるためにも、家庭と連携し、家庭学習充実化を図っていく。そのため、ICTを活用したり、自習学習のやり方を研究し、児童の学習意欲を喚起していく。
基礎学力の定着	授業改善	3 学校は、基礎学力が定着するよう、わかりやすい授業・たのしい授業に努めている。(タブレット等の活用を含む)	100.0%	86.5%	○わかる喜び・学ぶ楽しさを味わわせることができる授業を展開するために、学習課題の設定とまめとの徹底を行ったことにより、児童に分かりやすい授業を展開できている。 ○長期間、学校を休む児童には、オンラインにより家庭とつなぎ、朝の会や授業を実施した。その結果、児童の参加は9割を超えている。 ○家庭学習では、各学年の発達段階や児童の実態に合わせ、学習意欲を喚起している。特に、タブレットを使用した自主学習等も増えてきている。	B	○全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の結果を校内研修で細かく分析し、学校・学年としての対応策を明確にする必要がある。また、タブレット活用においても教職員で研修を行い、幅広い学習を展開し、個に応じた指導を充実させていく。 ○家庭学習を習慣化させるためにも、家庭と連携し、家庭学習充実化を図っていく。そのため、ICTを活用したり、自習学習のやり方を研究し、児童の学習意欲を喚起していく。
	学習規律の確立と家庭学習の充実	4 学校は、児童が集中して学習に取り組めるよう指導するとともに、児童が家庭学習に取り組めるよう指導している。(タブレット等の活用を含む)	73.3%	82.4%	○学校だよりや学年だより等を定期的に発行し、保護者・地域の方々に対し、児童の活動の様子や学校の近況を伝え、本校の教育活動への理解を深めてもらう努力をした。 ○PTAや登下校見守りボランティア等、地域の方々に支えられている。 ○学校運営協議会や体育着・制服選定委員会等、義務教育学校開校に向けて、着実に準備を進めた。また、夏季休業中や冬季休業中には、小・中学校教職員と生徒が合同で物品の移動や廃棄等を実施した。 ○コロナ禍での制限がある中だったが、感染症防止対策を講じたうえで、修学旅行や運動会等、行事は実施することができた。	A	○義務教育学校開校に向けて、学校ホームページを一本化する予定である。そして、ICT活用アドバイザーと連携してホームページをさらに充実させていく。 ○交流は児童生徒にとって、とてもよい活動である。今後も児童生徒や教職員との交流を充実させていく。また、学校の魅力を今以上に発信していくために、授業参観や学校公開、保護者会等を計画し、保護者や地域の方々の参加を促していく。 ○今年度はコロナ禍のため、授業の公開等がなかったため、学校内での児童や教職員の様子が分からなかったため、人数制限やオンライン学校公開等、コロナ禍でもできる学校公開を考える必要がある。
保護者や地域との連携 (コミュニティ・スクールの視点)	学校の情報発信	5 学校は、学校だより・学年だより・学級だより・保健だより・学校ホームページ・メール配信等をおとして、学校の教育活動を発信している。	100.0%	95.3%	○学校だよりや学年だより等を定期的に発行し、保護者・地域の方々に対し、児童の活動の様子や学校の近況を伝え、本校の教育活動への理解を深めてもらう努力をした。 ○PTAや登下校見守りボランティア等、地域の方々に支えられている。 ○学校運営協議会や体育着・制服選定委員会等、義務教育学校開校に向けて、着実に準備を進めた。また、夏季休業中や冬季休業中には、小・中学校教職員と生徒が合同で物品の移動や廃棄等を実施した。 ○コロナ禍での制限がある中だったが、感染症防止対策を講じたうえで、修学旅行や運動会等、行事は実施することができた。	A	○義務教育学校開校に向けて、学校ホームページを一本化する予定である。そして、ICT活用アドバイザーと連携してホームページをさらに充実させていく。 ○交流は児童生徒にとって、とてもよい活動である。今後も児童生徒や教職員との交流を充実させていく。また、学校の魅力を今以上に発信していくために、授業参観や学校公開、保護者会等を計画し、保護者や地域の方々の参加を促していく。 ○今年度はコロナ禍のため、授業の公開等がなかったため、学校内での児童や教職員の様子が分からなかったため、人数制限やオンライン学校公開等、コロナ禍でもできる学校公開を考える必要がある。
	保護者・地域との連携	6 学校は、保護者や地域の意見を取り入れながら、コミュニティ・スクールとしての基盤を整備するとともに、義務教育学校の開校に向けた準備を進めている。	86.7%	89.9%	○生徒指導主任が中心となり、月ごとに決めた生活目標を児童に掲げ、基本的な生活習慣を身に付け、規律ある態度の育成を図った。 ○台っ子遊びや台っ子清掃、登校班等の縦断的活動では、6年生が中心となり、異年齢集団の中で最上級生としてのリーダーシップや下級生への思いやりを心で育てることができた。 ○「特別の教科 道徳」では全ての内容項目を履修できるよう、各学級で工夫しながら授業時数を確保した。(各学年の道徳の授業時数34時間以上) ○11月人権週間では、授業参観の授業を「人権」を意識した授業を実施し、人権意識を向上させた。	A	○コミュニティ・スクールとして学校公開は工夫して実施する必要がある。 ○情報発信をしても受け取る側に伝わらない場合もある。
社会性・人間性の育成	規律ある態度の育成	7 学校は、あいさつ・ことばづかい・きまりを守る等、規律ある態度の育成に努めている。	93.3%	89.9%	○生徒指導主任が中心となり、月ごとに決めた生活目標を児童に掲げ、基本的な生活習慣を身に付け、規律ある態度の育成を図った。 ○台っ子遊びや台っ子清掃、登校班等の縦断的活動では、6年生が中心となり、異年齢集団の中で最上級生としてのリーダーシップや下級生への思いやりを心で育てることができた。 ○「特別の教科 道徳」では全ての内容項目を履修できるよう、各学級で工夫しながら授業時数を確保した。(各学年の道徳の授業時数34時間以上) ○11月人権週間では、授業参観の授業を「人権」を意識した授業を実施し、人権意識を向上させた。	A	○基本的な生活習慣については、できていない項目ははっきりしている。特にあいさつについては、自分から元気よく気持ちよい挨拶が交わされるよう指導していく。今後も目を凝らして挨拶する「相手より先に挨拶する」など、あいさつの質の向上を目指し、取組を継続していく。 ○異学年交流を継続的に実施し、意図的に6年生に活躍の場を設定し、学校のリーダーとしての自覚をもたせていく。 ○特別の教科道徳やすべての教育活動の中で、道徳的実践力を高めていく。
	特別活動の充実	8 学校は、児童が縦断的活動(登校班・清掃・運動会応援団等)で他学年の人と交流し社会性を身につける活動をしている。	100.0%	97.3%	○年度当初に全教職員でアレルギー対応研修(コピペ)を実施し、共通理解を図ることができた。 ○児童には「なかよしアンケート」(年3回)を、保護者には「学校生活アンケート」(年3回)を実施し、保護者の声を直接受け止める機会としている。また、懇談会(年3回)の実施や電話での連絡等、保護者と密に連携している。 ○日々の安全点検、定期点検を欠かすことなく実施したことにより、早期発見・早期対応に努めることができた。また、日常の安全点検を組織で確実に実施することで、教職員の安全管理意識を向上させることができた。(定期点検年11回実施)	A	○月1回の安全点検を確実に実施し、危険箇所や不具合箇所を把握し、早急に対応し、児童の安全を確保していく。 ○学校生活の過ごし方や登下校での安全確認等、児童自身が考え行動する力が身につくよう、今後も児童への安全指導を徹底していく。 ○日々から児童の様子をよく観察し、情報を全教職員で共有していく。面談が必要な場合には児童や保護者との面談を設定し、相談しやすい環境づくりに努めていく。担任一人一人が対応するのではなく、教育相談主任や養護教諭、管理職等、組織で対応していく。
	心の教育の充実	9 学校は、自他を大切にすることや相手を思いやる心等、心の育成に努めている。	86.7%	88.5%	○年度当初に全教職員でアレルギー対応研修(コピペ)を実施し、共通理解を図ることができた。 ○児童には「なかよしアンケート」(年3回)を、保護者には「学校生活アンケート」(年3回)を実施し、保護者の声を直接受け止める機会としている。また、懇談会(年3回)の実施や電話での連絡等、保護者と密に連携している。 ○日々の安全点検、定期点検を欠かすことなく実施したことにより、早期発見・早期対応に努めることができた。また、日常の安全点検を組織で確実に実施することで、教職員の安全管理意識を向上させることができた。(定期点検年11回実施)	A	○安全意識や防犯意識を高めるためにも、「ハンドサイン」あいさつを今後も継続して指導してほしい。 ○普段の様子やいじめ等のアンケートを実施し、早期発見・早期対応は評価できる。しかし、保護者側と教員側では意識の違いがあるのではないかと感じている。そのため、連絡を密に取り、情報共有をする必要がある。 ○職員が児童と一緒に過ごす時間が減ってきているのではないかと危惧している。
安心安全な教育環境	教育相談体制の充実	10 学校は、アンケート等を実施し、児童や保護者の声に耳を傾けるとともに、相談しやすい環境づくりに努めている。	100.0%	86.5%	○年度当初に全教職員でアレルギー対応研修(コピペ)を実施し、共通理解を図ることができた。 ○児童には「なかよしアンケート」(年3回)を、保護者には「学校生活アンケート」(年3回)を実施し、保護者の声を直接受け止める機会としている。また、懇談会(年3回)の実施や電話での連絡等、保護者と密に連携している。 ○日々の安全点検、定期点検を欠かすことなく実施したことにより、早期発見・早期対応に努めることができた。また、日常の安全点検を組織で確実に実施することで、教職員の安全管理意識を向上させることができた。(定期点検年11回実施)	A	○月1回の安全点検を確実に実施し、危険箇所や不具合箇所を把握し、早急に対応し、児童の安全を確保していく。 ○学校生活の過ごし方や登下校での安全確認等、児童自身が考え行動する力が身につくよう、今後も児童への安全指導を徹底していく。 ○日々から児童の様子をよく観察し、情報を全教職員で共有していく。面談が必要な場合には児童や保護者との面談を設定し、相談しやすい環境づくりに努めていく。担任一人一人が対応するのではなく、教育相談主任や養護教諭、管理職等、組織で対応していく。
	安心・安全な学校づくりの推進	11 学校は、感染症防止対策や校舎内外の施設設備が安全に使えるよう整備をしている。	100.0%	89.9%	○年度当初に全教職員でアレルギー対応研修(コピペ)を実施し、共通理解を図ることができた。 ○児童には「なかよしアンケート」(年3回)を、保護者には「学校生活アンケート」(年3回)を実施し、保護者の声を直接受け止める機会としている。また、懇談会(年3回)の実施や電話での連絡等、保護者と密に連携している。 ○日々の安全点検、定期点検を欠かすことなく実施したことにより、早期発見・早期対応に努めることができた。また、日常の安全点検を組織で確実に実施することで、教職員の安全管理意識を向上させることができた。(定期点検年11回実施)	A	○月1回の安全点検を確実に実施し、危険箇所や不具合箇所を把握し、早急に対応し、児童の安全を確保していく。 ○学校生活の過ごし方や登下校での安全確認等、児童自身が考え行動する力が身につくよう、今後も児童への安全指導を徹底していく。 ○日々から児童の様子をよく観察し、情報を全教職員で共有していく。面談が必要な場合には児童や保護者との面談を設定し、相談しやすい環境づくりに努めていく。担任一人一人が対応するのではなく、教育相談主任や養護教諭、管理職等、組織で対応していく。

備考:回答者数 教職員15名(回答率100%)、保護者148名(回答率72.2%)

※達成度 「A」ほぼ達成(8割以上) 「B」概ね達成(6割以上) 「C」変化の兆し(4割以上) 「D」不十分(4割未満)

学校運営協議会での評価
実施日 令和5年2月15日
学校運営協議会の委員からの意見・要望・評価等
○現在、横手台地区には武蔵台小・中学校に児童生徒が通っていない家庭が多くあり、令和5年度より義務教育学校として開校することを知らない家庭も存在している。学校だよりや学校運営協議会など、地域住民にも手紙を回覧しているが、今後も小中一貫校の周知が必要である。 ○義務教育学校開校に向けてとても不安があったが、学校だより等で情報を確認することができ、開校準備が着実に進んでいるので安堵している。開校に関して、児童生徒や保護者に不安を与えないと評価している。 ○タブレットのみを活用して授業をするイメージではなく、「情報」を得る道具・手段として活用することを望ましい。 ○タブレットは児童にとって興味津々の道具である。そのため、楽しむことが優先されてしまふ懸念がある。 ○家庭学習を通して、どのよう学力向上を目指すのかを知りたい。 ○学習規律の確立と家庭学習の充実の職員評価が73.3%のため、達成度Aではなく、Bが妥当ではないかと考える。 ○埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を学校運営協議会で公表してほしい。 ○タブレット環境が整っていない家庭には、市の貸出ルーターがあるように。 ○コミュニティ・スクールとして学校公開は工夫して実施する必要がある。 ○情報発信をしても受け取る側に伝わらない場合もある。 ○登校班では班長が下の学年の面商をよく見ている。異学年の交流が円滑にできている。 ○登下校での「あいさつ」ができている。高学年がリーダーとなり、下級生のお手本となっている。今後も継続してあいさつ指導に取り組んでほしい。 ○安全意識や防犯意識を高めるためにも、「ハンドサイン」あいさつを今後も継続して指導してほしい。 ○普段の様子やいじめ等のアンケートを実施し、早期発見・早期対応は評価できる。しかし、保護者側と教員側では意識の違いがあるのではないかと感じている。そのため、連絡を密に取り、情報共有をする必要がある。 ○職員が児童と一緒に過ごす時間が減ってきているのではないかと危惧している。